

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	向居 暁	2025 年 6 月 4 日	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 国際共生コースポリシー共有ワークショップ ―アウトリーチ対応の共通理解―
				実施目的：新コースのディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーを全教員が共通理解し、高校説明会・訪問で一貫した説明ができるようにする。
				キーワード： 多文化共生、文化継承、ウェルビーイング、入試広報、アウトリーチ
				実施内容：第1回研修会では、令和8年度開設予定の国際共生コースについて、大学説明会用スライドをもとに情報共有を行った。多文化共生・文化継承の2コアユニット、ゼミを中心とした専門的学び、学生の活動、国際交流、取得資格、就職実績等を確認したうえで、キャッチフレーズやキーワード、コースの特徴を高校生・高校教員に伝わりやすく説明するための表現について意見交換を行った。あわせて、今後の広報資料や教育課程の具体化に向けた課題を共有した。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (経営分野)	村上 恵子	通年 第2水曜日 コース会議後	1616 演習室	テーマ： 学部再々編後の経営コース教育課程表の見直しと学生の学修支援に役立つ履修モデルの検討
				実施目的：令和8年度から経営コースでの教育及び学修支援をスムーズに行えるよう、学部再々編後の経営コースの3つのポリシーと養成する人材像、各専門科目の具体的な内容を踏まえて、経営コースの教育課程表の見直しと学生の学修支援に役立つ履修モデルの検討を行う。
				キーワード： 教育課程表、3つのポリシー、履修モデル
				実施内容：2025年5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、12月10日のコース会議後にFD活動を行った。経営コースの3つのポリシーと養成する人材像、各専門科目の具体的な内容をコース教員間で共有した上で、授業科目名や開講期などを中心に経営コースの教育課程表について協議し、確定した。また、学生の体系的な学修の支援に役立つ履修モデルについて検討し、教務委員が主体となって作成した。作成した履修モデルは、2026年度オリエンテーションにて1年生に配付した。
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (情報分野) (経営情報学部 経営情報学科)	富田哲治 折本寿子 佐々木宣介 重丸伸二 陳訓泉	4月上旬、9月下旬、11月～12月、その他必要に応じて随時	広島キャンパス 内の教室および 研究室	テーマ： PBL等のICT応用能力を育成する教育プログラムへの学生参加促進
				実施目的：地域産業コース情報分野が提供するPBL等により学生のICT能力の育成を目的の一つとした教育プログラムへの参加を促進する。
				キーワード： PBL、IoT・AI、応用基礎レベル
				実施内容：地域産業コースのカリキュラムは情報学の基礎から応用までを学べる教育プログラムになっている。その中でも、PBL等による学生のICT能力育成を目的の一つとした講義・演習や、IT系企業と連携した学内インターンシップがある。これらの教育プログラムへの参加を促進することで、実践的なICT能力を備えた学生を育成する。参加促進のため、年度はじめオリエンテーションや期初面談等において周知を徹底した。また、地域創生学部で令和8年度に申請予定の数理・データサイエンス・AI「応用基礎レベル」に関連して、既存の専門科目から認定要件に相当する講義・演習の選定を行い、情報分野の学生に対する応用基礎レベル認定促進についても検討した。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	辻 文 杉山 寿美 松本 茜 谷本 昌太 森脇 弘子 山岡 雅子 神原 知佐子 岡田 玄也 辻 愛	令和7年7月19日 (土) 10:00～12:15 情報交換会：12:25～	2455 室 情報交換会： 1526 室	テーマ：学生キャリア支援に向けた健康科学コースの組織的実践
				実施目的： 本コースでは、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格、栄養教諭一種免許状が取得でき、これらの資格を生かした就職先として、官公署、学校、病院、大学教員、公的研究機関等がある。学生のコースでの学びへの動機づけ、キャリアビジョンの明確化およびキャリアデザインを支援するため、健康科学コースの在校生および教員を対象として、卒業生等によるシンポジウムを実施した。
				キーワード：養成する人材像、キャリアデザイン、キャリアビジョン
				実施内容： 「管理栄養士シンポジウム」として、本コースが養成を目指す人材像を具現化している卒業生等を講師に招き、現在の仕事内容、仕事のやりがい、学生時代に力を入れて取り組んでおくべきこと等について講話をいただいた。 当日は、開会挨拶の後、食品衛生行政、学校給食・栄養教育、地域保健、医療機関、農政行政、大学院進学・研究教育分野で活躍する講師計6名より、それぞれの職務内容やキャリア形成の過程について講話をいただいた。講話は前半・後半に分けて実施し、各講話後および前半・後半の区切りに質疑応答の時間を設けた。最後に全体質疑応答を行い、学生が多様な進路や専門職としての働き方について理解を深める機会とした。 また、シンポジウム終了後には情報交換会を実施し、講師、学生および教員間で、キャリア形成、学生時代の学修経験、資格取得後の働き方等について意見交換を行った。
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	辻 文 鍛島 秀明 山岡 雅子	令和7年10月 15日（水）	1418 室	テーマ：新規資格導入に伴う情報共有と勉強会
				実施目的： 本コースでは、令和8年度より新たに「健康運動実践指導者」資格の取得支援を導入する予定である。本FD活動では、当該資格に関する基礎的な情報、すなわち資格制度の概要、関連授業内容、資格取得のメリット等を共有し、コース教員全体で理解を深めることを目的として実施した。あわせて、管理栄養士資格との関連性や学生へのキャリア支援の在り方について意見交換を行い、教育内容の充実を図った。
				キーワード：資格導入、就職支援、健康運動実践指導者、キャリア支援
				実施内容： 健康科学コースの教員を対象として、健康運動実践指導者資格の導入に関する情報共有および勉強会を実施した。具体的には、健康運動実践指導者養成校認定申請の趣旨、管理栄養士による身体活動支援の意義、養成校認定要綱の概要、認定申請に必要な提出書類、今後の認定取得までのスケジュール、養成講座修了者に対する認定試験の内容について確認した。 また、参考情報として健康運動指導士資格についても取り上げ、学生が在学中に取得可能なケースや、そのための支援体制について情報共有を行った。最後に、資格導入に伴う授業内容の変更・改善、学生への資格取得支援、管理栄養士資格との関連づけ、就職支援への活用等について質疑応答およびディスカッションを行った。 本活動により、教員間で「健康運動実践指導者」資格の制度および意義を共有するとともに、学生へのキャリア支援や資格取得支援の方向性を具体化する機会となった。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 地域資源開発学科	藤田景子 村田和賀代 馬淵良太	令和7年4月～ 毎月1回程度	Teams によるオ ンライン会議ま たは対面	テーマ： 地域資源開発学科におけるカリキュラム編成
				実施目的：当学科では、改組(2020年4月)以降カリキュラムの変更がなかったが、科目数や科目の開講年度等に偏りがあることが明らかになった。これらを是正してゆくことで、学生・教員双方の負担軽減や不利な点の解消を行うことを目的とする。ひいては、学生の学校生活や教育効果の充実につなげる。
				キーワード： カリキュラム編成
				実施内容：コーディネーター教員（カリキュラム編成WG）を中心にカリキュラムにおける問題点を洗い出し、R7年4月2日に「カリキュラムに関する会議」として学科教員間で情報を共有し、意見交換した。主な課題点として①退職する教員の授業担当、②体系的な学びとなる授業および開講時期の再構築、③3ポリに沿った授業の開講、④資格取得のしにくさの是正、⑤わかりにくい科目名、⑥教員負担の偏りなどが挙げられた。これら意見をまとめ、WGによって5月と10月にカリキュラムの変更を検討し、学科会議に変更案を提出・審議、さらに再変更をへて、令和8年度のカリキュラムに変更案を適用した。具体的には、2つの新たな科目の開講、内容が重複している科目の整理、資格に必要な授業科目に対応する科目の増加と必修・選択の整理（この変更により資格取得をしやすくした）などを行った。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	山下泰尚	通年 毎月第2水曜 2限	第二会議室 (対面による会 議)	テーマ：卒業研究の指導が困難な学生に対する指導方法の検討
				実施目的： 最近、卒業研究の指導が難しい学生が増えている。そういった学生を無事卒業まで導くために、本FD活動では、コース教員間で知恵を出し合う機会を設けて対応策を練る。具体的には、学生のプライバシーに配慮しながら、教員間で各学生の状況について情報を共有し、適切な個別指導法を議論し、検討する。
				キーワード： 学生対応、研究活動、指導困難、教育力向上
				実施内容： 昨今、さまざまな理由により、研究室に来られなくなる学生や、研究室でトラブルを起こしてしまう学生が目立つようになっている。そういった学生の卒業研究指導は非常に困難になることが多い。2年次までの講義、実習では彼らの特性が目立ちにくく、研究室など小グループでの密な活動が始まって初めてそれらの特性が顕著に現れることが多い。学生間、学生-教員間でトラブルに発展するケースもあり、研究室全体に多大な影響が出る例もある。教員の多くは心理学の専門知識に乏しいため、一人だけで対応するのは困難である。そこで、このような学生を無事に卒業まで導くために、以下の点に注意して生命科学コース教員全員で学生の情報について共有を行い、その対策について協議した。 個人名は出さない、各自では記録等をとらないことを原則に、プライバシーに十分配慮して以下の項目を行う。 1) 学生が休みがちな場合 まずは、本人と連絡をとり事情を聞き、聞き取り内容によっては学生相談室にかかるように学生に指導する。本人と連絡が取れない場合は、教学課、保護者とも連携する。 2) 学生の研究室内外の行動が予測不能な場合の対応について R7年度は研究室学生間（4年生）でトラブルが発生した。原因の一つが、一方の学生の特性（発達障害）によって生じたものであった。教員、教学課、学生相談室と連携して、問題に対処して適切に対応でき、無事当該学生の卒業論文を作成させ、卒業させることができた。 加えて、上記の諸問題について、対応が適切であるかを専門教員に諮るために、R7年9月10日のコース会議後に庄原キャンパス所属の学生相談室教員である石原克秀准教授に「問題のある学生への対処法について」ご講演を頂き、講演後にコースで直面している学生対応に関する諸問題について協議を行なった。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	岡田守弘	生命環境基礎セ ミナー（第4Q, 水曜3限） 生命科学セミナ ー（第4Q火曜 3限, 4限）	生命環境基礎セ ミナー（2202 講義室） 生命科学セミナ ー（1202 講義 室）	テーマ： 学生に卒業研究を進める意義を考えさせる
				実施目的： 生命科学コースでは3,4 年次に卒業研究を行う。しかし、卒業研究の意義、位置づけを理解しないまま研究室に配属される学生も多い。本年度は、本学の大学院生による1,2 年生向けの講義を企画し、学生に早くから「研究すること」を考えさせ、研究の動機付けとする。講義では、卒業研究が、大学院進学を含めたキャリア形成にどう役立つ、あるいは役立ちそうか、大学院生目線で話をしてもらった。
				キーワード： 卒業研究、大学院生による研究紹介、ロールモデル、教育力向上
				実施内容： 学生に卒業研究、地域課題解決研究を早くから意識させ、卒業研究を有意義に進めさせるために、本学の大学院生にお願いして、大学在学時の研究と現在の研究との関連についての話をした。 ・1年生向けの生命環境科学基礎セミナー、2年生向けの生命科学セミナーでは、これまで、かなりの時間を割いて卒業研究について説明してきたが、学生の言動を見ると、卒業研究の意義が彼らに十分に伝わっていないように感じられる。そこで、研究についてより具体的に考えてもらうために、R7年度は、本学の大学院に在籍する院生にお願いして、大学在学時の研究と現在の研究との関連についての話をお願いした。 ・登壇する大学院生を各研究室から推薦いただき、候補者リストを作成した。その上で、教員間で今年度の主たるテーマを議論し、そのテーマにふさわしい院生を選定し、セミナーの依頼を行なった。 ・各教員は、適宜、セミナーの内容の背景について自らの講義時間内で簡単な解説を加え、学生の理解を助けるように配慮する。これにより、各教員の講義のブラッシュアップにもつながり、各自の教育力の向上も図られた。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	橋本温	講義準備の事前 打ち合わせ(4 回) および各講義終 了後のミーティ ング時(4回)	実施教室または セミナー担当 WG 教員の研究 室	テーマ： 生命環境科学基礎セミナーを通じた環境科学キャリア教育への共通理解
				実施目的：環境科学コースで実施されている専門キャリア教育について、教員間で共通理解を促進し、所属学生の専門教育およびキャリア指導の改善を行う。環境科学コースのキャリア教育であることから、本コースにて実施する。
				キーワード： 専門キャリア教育、環境科学、社会実践
				実施内容： オリゼミ-セミナー系講義-卒論等を通じた環境科学コース独自のキャリア教育(講義+学習の記録(ポートフォリオ)等)を実施するとともに、今年度はコース内教員での目的趣旨、内容の共有を強化し、専門教育およびキャリア指導への改善を行う。 ①生命環境科学基礎セミナーの実施 ・環境関連の企業/官公庁のご講義 ・教員—学生ディスカッション ・大学院進学を視野に入れたキャリア教育 主担当：橋本、小林、柳下、青柳 →毎回実施する学生アンケート(学生への問いかけ/学習の記録(ポートフォリオ)等)の回答内容を基に、セミナー内容の教育的効果の確認を実施した。環境科学および社会での活躍の場へ理解の増進につながっていることを確認した。また、お話しいただく企業様等の選択について、改善の余地を見いだした。 ②セミナー主担当教員以外の教員による授業参観 ・セミナー講義のディスカッション等を中心に授業参観、ディスカッション等への参加 →主担当ではない教員の参加の促進を促したが、他の業務等との関係から難しかった。 ③終了後ミーティングの実施 ・セミナー講義の振り返り、内容と方針の共有 ・授業参観教員によるフィードバックと次年度への改善 ・昨年度後期および今年度新任教員との情報交換 →新任教員(小関/尾崎)の加入により、新しい視点からの講義運営や学生とのディスカッションの方向性、講義構成の改良など、次年度に大いに参考にできる視点を得ることができた。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎青井聡美 津田哲也 小野武也 古山千佳子 今川記恵 手島 洋 （事務） 近村千穂 名高下南美子	① 第1回： 4月14日（月） 10：40～11：50 第2回： 6月27日（金） 10：40～15：50 第3回： 8月1日（金） 14：40～15：15 第4回： 8月6日（金） 10：40～15：50 第5回： 10月1日（水） 10：40～11：30 *FD研修会 令和8年3月2日 （月）13：00～14：30	①三原キャンパス4号館 4305会議室 ②Web開催 （Zoom）	テーマ： ①良い授業のための改善と工夫 ②医療安全対策
		② 第1回 令和7年7月23日（水） 16：20～17：20 第2回 令和7年12月10日（水） 16：20～17：20		実施目的：教員が考える「良い授業」の共通点や視点を共有し、他の教員が取り入れている実践や工夫を知ることで、新たな授業のアイデアや技術を学び、保健福祉学部の教育力と質の向上を目指す。
				キーワード：良い授業 教育力の向上 医療安全
				テーマ① 開催方法：対面 実践や考えを共有し、新たな気づきを得ることを目的として、5コースおよび助産学専攻科の教員が参加し、以下の3つの視点からディスカッションを行った。 ①教員が考える「良い授業」とは何か②良い授業を実現するための授業方法③各教員が実践している教育方法の工夫 参加者は50名（看護：17名、理学：6名、作業：8名、コミュ：8名、人福：9名、助産：2名）であった。研修後の振り返りでは、「国家試験のための学びではなく、主体的に学ぶ力を育成する授業が重要であると共有できた」「良い授業の捉え方は教員によって異なり、多様な取り組みが補完的に作用すると感じた」といった意見が寄せられた。今年度は90分の研究会としたが、時間設定については参加者の86%が「ちょうどよい」と回答していた。しかし自由記述では、「ディスカッションの時間が短く、各教員の意見を深く聞くには不十分であった」という意見もみられた。 テーマ② 第1回テーマ：企業と共同開発した短下肢装具の装着自立に資する自助具の開発 開催方法：WEB開催（Zoom） 講師 因島医師会病院 リハビリテーション科 作業療法士 横山 結先生 参加人数：46名 第2回テーマ：安全な学校参加を目指した小学校における環境調整－作業療法士による学校訪問支援－ 開催方法：WEB開催（Zoom） 講師：作業療法学コース 助川 文子 准教授 対象：保健福祉学部の5コース、助産学専攻科の教員、職員およびSA等の学生 参加人数：45名

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	実習検討会 ◎奥田玲子 岡田ゆみ 松森直美 山中道代 井上 誠 上野陽子 沖西紀代子 加利川真理 木場しのぶ	テーマⅠ 令和7年 4月18日 テーマⅡ 令和7年 ①4月4日 ②5月9日 ③6月5日 ④7月10日 ⑤8月5日 ⑥9月18日 ⑦10月30日 ⑧12月11日 令和8年 ⑨1月13日 ⑩2月12日 ⑪3月9日	テーマⅠ Zoom 会議 テーマⅡ ①～⑪ Teams 会議	テーマ： Ⅰ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題、今年度臨地実習に関する情報共有 Ⅱ：臨地実習教育の充実
				実施目的：臨地実習における学生の現状と課題を関係者間で共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る
				キーワード： 臨地実習、情報共有、看護教育質向上
				実施内容： テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題、今年度臨地実習に関する情報共有 日時：4月18日（金） 13：30～15：00 参加者：施設56名（病院9施設・訪問看護ST10施設・地域包括ケア関連施設11施設） 教員23名 内容：実習指導担当者協議会を開催し、本学教員と実習指導担当者間で令和6年度実習の成果・課題を共有した。また、本学ならではの強みを活かした教育プログラムについて紹介したうえで「多職種連携・協働の力を実習の場でどう育てるか」をテーマとし、グループ討議を行った。 実習における多職種連携・協働の学修支援の現状や課題を共有し、より効果的に連携・協働の力を育むための改善策などについて意見交換が行われた。 テーマⅡ：臨地実習教育の充実 毎月の会議で各臨地実習の報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有および意見交換を行った。また、年間計画に基づいて以下の内容について検討し、臨地実習の充実を図った。 1. 令和8年度臨地実習要綱の作成 内容・構成の見直し、印刷・配布体制の整備を行った。 2. 令和8年度実習計画案の作成 9月に実習計画案を作成し、10月に承認、12月に公文書発送、1月に承諾書を受領した。 3. 実習における感染症対策の実施と感染状況の把握 感染予防の徹底と健康観察・情報共有により早期対応した。 4. 臨地実習における看護技術経験状況の把握 令和3・4年度入学生の看護技術経験録の集計を行い、各領域実習で経験しやすい技術項目や到達レベルの傾向を把握した。 5. 実習状況の共有および学生指導への活用 毎月の実習検討会において、進行中の実習状況を共有し、学生指導に活用した。 実習における生成AIの利用に関するガイドラインを作成した。 6. 保険の見直しと周知 7. 学研災の補償内容をふまえ、追加加入の必要性を検討するとともに、補償内容の説明体制を整備し、資料配布方法を整理した。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	看護学コース FD 担当 青井聡美	テーマⅠ 令和7年 ①4月15日 ②5月20日 ③6月19日 ④7月16日 ⑤9月16日 ⑥10月20日 ⑦12月16日 令和8年 ⑧1月20日 ⑨2月24日 ⑩3月17日 テーマⅡ 令和7年5月2日	テーマⅠ Teams オンライン会議 テーマⅡ 対面	テーマ：Ⅰ 教員の研究力、教育力の向上を図る Ⅱ コンピテンシー基盤型教育の実現に向けて
				実施目的：看護大学教員に必要とされる「研究実践力」「教育力」「教員間協働力」の向上を図る
				キーワード：研究実践力 カリキュラム 教育力
				実施内容： テーマⅠ 教員の研究力、教育力の向上を図るランチディスカッション 日時：毎月1回（8・11月除く） 第3火曜日 12：15～12：45 内容：統計の基礎 講師：菅井敏行先生 参加者：4月10名、5月10名、6月12名、7月12名、9月5名、10月7名、12月10名、1月12名 2月9名、3月15名 統計の基礎理解が深まり、教員間の研究支援体制が強化された。 テーマⅡ コンピテンシー基盤型教育の実現に向けて 目的：看護学教育モデル・コア・カリキュラムで示された看護学士課程を修了した看護師として求められる756の資質・能力を取り入れた学修内容、教授方法を考える 日時：5月2日（金）9：30～11：30 参加者：42名 <u>実施内容</u> 看護学コース DP と看護学教育モデル・コア・カリキュラムの「第一階層の基本的な資質と能力」「第二階層の学修目標」と対応をさせ、DP修正案が具体化した。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	教育課程検討会 青井聡美 菅井敏行 上野陽子 沖西紀代子 俵 志江 渡辺陽子 中垣和子 麻生浩司 土路生明美	令和7年 ①4月2日 ②5月8日 ③6月3日 ④7月13日 ⑤9月12日 ⑥10月24日 ⑦11月18日 ⑧12月19日 令和8年 ⑨1月22日 ⑩2月26日 ⑪3月10日	①・②回： 対面 ③～⑪回： Teams オンライン会議	テーマ： ①看護学コースのカリキュラム評価 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策と教員採用試験対策
				実施目的：看護学コースの教育内容と学生の学習成果を評価し、看護学教育の質の向上をはかる。模試後のフィードバックを通じて、個別のサポートを提供し、学生の学修支援を強化する。
				キーワード： カリキュラム評価、学修支援、国家試験対策
				実施内容： 1. カリキュラム評価の検討 ①DP 評価ルーブリック集計と分析 ：8/19 教学 IR 推進室による分析結果報告会開催 ②R8年度用カリキュラムツリー作成した。 2. 学修支援アドバイザー(在学生・卒業生)の運用(資料参照) ①R7年度SA登録人数：2年生3名・3年生17名・4年生14名 慢性病看護実践論(5名)、基礎看護実習Ⅰ(6名)、慢性病看護実習・急性期看護実習・老年看護実習(3名)、「教・職・学」協働による教育改革研修(3名)周産期看護実践論(4名)、解剖学看護特論補習課題支援(6名)、小児看護実践論(5名)にて活動している。 ②卒業生アドバイザー：3名(卒後2年目)がアドバイザーとして日常生活援助方法論Ⅰの演習で活動した。 3. 国家試験対策(国家試験模試除く) ①国家試験対策通信作成(年2回) ②解剖学セミナー実施(7/15)：4年生56名が参加した。 ③国家試験模試後のチューター面談の依頼と学修状況が気になる学生への対応の検討 過去3回の模試で必修問題が3回とも40点未満だった8名と、第3回模試で40点未満かつ第1・2回のいずれかでも40点未満だった4名、計12名を対象に支援を行った。対象学生には、チューターおよび国試担当者を含むグループチャットで連絡を行い、1月5日(月)～9日(金)の期間、進捗を確認しながらメディックメディアの復習機能を活用した学習を促した。 ④保健師国家試験対策：保健師模試後セミナーを3回実施した(10/16、12/3、1/27)。 ⑤教員採用試験対策 ・7月に教員採用試験予想問題(広島県過去問から作成)をTeams(各学年の養護教諭希望学生のチーム)にアップロードした。また、実習室(2207室)を開放し自己学習ができる環境を整えた。 ・2年生対象者については、随時個別対応を行った。 ・1年生に対しては、1月に今後の進路に関する個別面談を実施した。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等																										
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	小野 武也	通年 随時、水曜他 開催	Teams オンライン	テーマ：適切な学生支援のための情報収集と情報共有ならびに対応方法の検討																										
				実施目的：「多様な学生への支援を柔軟かつ適切に対応するため」、「国家試験やコアカリキュラムに即した科目内容を検討し、受験生に選ばれる魅力的な専門科目を設定するため」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図るため」																										
				キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践																										
				実施内容：																										
				<table><tr><td>日時</td><td>実施場所</td><td>実施内容</td></tr><tr><td>4月</td><td>Teams</td><td>学生意識調査からみえること</td></tr><tr><td>5月</td><td>Teams</td><td>R7年度新入生アンケート結果と広報戦略</td></tr><tr><td>6月</td><td>Teams</td><td>新カリキュラムの理学療法研究法・研究法演習</td></tr><tr><td>7月</td><td>Teams</td><td>第1回理学療法教育アイデアコンテスト報告</td></tr><tr><td>8月</td><td>Teams</td><td>医療系大学生の学習観分類</td></tr><tr><td>10月</td><td>Teams</td><td>研究センターの紹介と申請・審査について</td></tr><tr><td>11月</td><td>Teams</td><td>理学療法学概論Ⅰルーブリック結果</td></tr><tr><td>1月</td><td>Teams</td><td>福山シティFC Reinaの紹介と活動報告</td></tr><tr><td>2月</td><td>Teams</td><td>三原市 学力向上に関する取り組み について</td></tr></table>	日時	実施場所	実施内容	4月	Teams	学生意識調査からみえること	5月	Teams	R7年度新入生アンケート結果と広報戦略	6月	Teams	新カリキュラムの理学療法研究法・研究法演習	7月	Teams	第1回理学療法教育アイデアコンテスト報告	8月	Teams	医療系大学生の学習観分類	10月	Teams	研究センターの紹介と申請・審査について	11月	Teams	理学療法学概論Ⅰルーブリック結果	1月	Teams
日時	実施場所	実施内容																												
4月	Teams	学生意識調査からみえること																												
5月	Teams	R7年度新入生アンケート結果と広報戦略																												
6月	Teams	新カリキュラムの理学療法研究法・研究法演習																												
7月	Teams	第1回理学療法教育アイデアコンテスト報告																												
8月	Teams	医療系大学生の学習観分類																												
10月	Teams	研究センターの紹介と申請・審査について																												
11月	Teams	理学療法学概論Ⅰルーブリック結果																												
1月	Teams	福山シティFC Reinaの紹介と活動報告																												
2月	Teams	三原市 学力向上に関する取り組み について																												
備考）個人情報等を含む内容は、非公開とする。																														

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学コ ース	古山千佳子	テーマⅠ：コー ス会議（毎月 第1, 3水曜日） テーマⅡ：年6 回（5/21, 6/4, 7/16, 10/15, 1/21, 2/18: 12:30-13:00	4102 会議室	テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：教育理念と授業内容の共有
				実施目的：テーマⅠ：学生の情報を共有し，指導・援助についてコース内のコンセンサスを図る。 テーマⅡ：授業および研究内容を教員間で共有し，教育の質の向上を目指す。
				キーワード： 学生指導，情報共有，教育の質
				実施内容： テーマⅠ：コース会議にて学生情報の共有 テーマⅡ： ① 5月21日 SAP（Structured Academic Portfolio）の紹介（吉川ひろみ） ② 6月4日 研究および授業紹介（岩崎愛美） ③ 7月16日 研究および授業紹介（山下美保） ④ 10月15日 国家試験対策，国家試験の学習に関する学生情報の共有（田中睦英，坂本千晶） ⑤ 1月21日 授業ピアレビュー（参観・公開）の感想および情報共有（全教員） 2月18日 R7年度 学生指導の総括（1-4年チューター）

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	津田 哲也 今川 記恵	令和7年4月 ～令和8年3月 (年3回)	Teams 上にて オンラインで、 実施	テーマ： 年間を通じたコースでの教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る
				実施目的： ①教育の質の向上、②教育の成果に即したカリキュラム改善、③教員の研究・臨床能力の向上および研究・臨床活動の活性化
				キーワード： 教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習
				実施内容： テーマⅠ 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 ① 令和7年4月30日（水） （話題提供者：細川淳嗣） 進研アド研修会資料「最新の入試動向と高大接続」の共有 ② 令和7年9月24日（水） （話題提供者：中村 文 小島理恵子） 科目ループリック（コミュ診断法・臨床実習1、令和6年度2年生）に関する報告 テーマⅡ 教員が取り組んでいる臨床・研究活動の紹介と議論 ① 令和8年3月25日（水） （話題提供者：坊岡峰子） AAC（拡大・代替コミュニケーション）の国際的動向

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 人間福祉学コース	手島 洋	令和8年2月18 日	Teams によるオ ンライン会議	テーマ： 実習教育における実習指導者と教員の連携・協働の促進 ・ソーシャルワークの実践力の学生への指導
				実施目的： ソーシャルワーク実習及び精神保健福祉実習において、大学での実習指導と現場での実習指導の連続性を向上し、実習教育の効果を向上することを目的とする。
				キーワード： 実習教育、実習指導、連携
				実施内容： 対象：人間福祉学コース教員 12名参加 日時：令和8年度2月18日 2限 方法：コース内の担当教員が実習指導者との連携や協働の工夫をしている点と課題に感じている点について、小グループに分かれて情報共有を行い、最後に全体で議論内容の共有を行った。 成果：今回は、実習指導者との関わりについて初めて教員間で話をしたが、①実習前の学生の学習内容ややプログラムの確認などの事前調整では実習指導者の意向を聞くことに留意している、②実習後に実習指導者へのフィードバックが不足している、など現状や課題が明らかにされた。今後の実習指導者とのより密接な関わりの参考とすることができた。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻科	奥山 葉子 金川 景子 村上 杏里	4月2日 9:30 4月17日 13:30 5月8日 13:30 6月4日 13:30 7月25日 13:15 8月27日 13:30 9月10日 10:40 1月16日 10:40 2月10日 13:30 3月9日 14:00	三原キャンパス 4315 研究室	テーマ：教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み
				実施目的：学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討し実践に繋げる。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。
				キーワード： シミュレーション教育、客観的臨床能力試験：OSCE
				実施内容： アフターコロナや少子化等、周産期に関する社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討するとともに、具体的な評価方法を検討・実践する必要があります。 助産学専攻科では、今年度以下の通り取り組みました。 ① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）と評価について（4/2：金川） ② タスク・トレーニングの検討と評価について（4/17 妊：奥山、分：金川、褥新：村上） ③ 各期の客観的臨床能力試験：OSCE と評価の検討①（5/8：妊:奥山、分:金川、褥新:村上） ④ シミュレーション教育後の実習での学び方（6/4：奥山） ⑤ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（7/25：金川） ⑥ 臨地における助産学実習内容と評価の検討（8/27：奥山） ⑦ 各期の客観的臨床能力試験：OSCE と評価の検討②（9/10 妊:奥山、分:金川、褥新:金川） ⑧ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（1/16:奥山） ⑨ 修了時の学生の学修到達度について（2/10：金川） ⑩ 実習指導担当者との実践報告および振り返り（3/9：奥山）